

令和6年度 学校評価自己評価表

a ミッション	【校訓】「こころひろく ゆめおおきく」 ふるさとに誇りをもち、自分を愛し、夢を語る児童の育成	ビジョン【学校教育目標】自ら学びたくましく生きる【学校経営目標】「やる気」「元気」「思いやり」で感謝いっばいせらにしの小学校 【めざす学校像】〇一人一人を大切にできる学校〇授業を大切にできる学校〇地域や家庭を大切にできる学校 【めざす児童像】〇自ら考え、自ら学ぶ児童〇ふるさとに誇りをもち児童〇自らを愛し、自らを管理する児童 【めざす教職員像】〇学校教育目標に向けて協働する教職員〇教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教職員〇資質・能力の向上に努める教職員〇法を遵守し、公教育の責任を果たす教職員	【育成を目指す資質・能力】 【知識及び技能】知識・技能 【思考力・判断力・表現力等】思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力・人間性】主体性・自らへの自信
---------	---	--	--

世羅町立せらにし小学校

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策 (取組指標を含む)	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					達成値	達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力	【授業づくり】 〇主体的・対話的で深い学びとなるような単元を構成し、課題発見解決学習の充実を図る。 【学びのペース】 〇「読み・書き・計算」などの、基礎学力を定着させる。 〇読書活動を充実させる。	〇「考える」課題・発問を設定し、教師のファシリテート力を高め、児童の発言が主体となるような授業づくりをする。 〇全校放送で、各学級で「今日のことば」として慣用句や四字熟語などを紹介し、語彙の獲得を図る。 〇朝会に漢字の書き取り、つばきタイムに計算を継続して行う。 〇全校読み聞かせ、読書朝会、親子読書等の読書活動を通して、読書に親しむ習慣をつける。	〇ルーブリックによる自己評価で、肯定的評価をする児童の割合(算数科) 〇単元末テストの観点「思考・判断・表現」において期待正答率以上の児童の割合	70%	94.1%	92.0%	131%	A	〇ルーブリックによる自己評価で、肯定的評価をする児童の割合は、「①課題をもつ 92.1%(+0.6%)」「②考えを伝える 89.6%(-2.1%)」「③友達から学ぶ 94.3%(-4.8%)」であった。1学期同様、肯定的回答が高く、授業に前向きに取り組むことができている児童が多く、児童の発言が主体となる授業づくりに向かっていっていると言える。A評価をつけている児童も増加した。①51.2%(+4.5%)②43.3%(+1.5%)③68.9%(+13.1%)しかし、単元末テストの結果を見ると「思考力・判断力・表現力」を育む授業づくりには課題が見られる。児童が主体となる授業だけでなく、「思考力・判断力・表現力」をつける授業づくりについての研究を進めていく必要がある。 〇高学年は、期待正答率自体が低いため、正答率70%以上を基準にした。達成する児童の割合は高く、日々の漢字の指導による定着が見られる。引き続き、漢字の定着を図っていく。 〇1学期同様、多くの児童が計算の個人目標を達成することができた。計算内容が偏らなくように担任で調整するとともに、より高い目標をもたせていく必要がある。 〇読書朝会や家庭読書の日に読書に取り組んでいる児童は多い。保護者に読み聞かせをしてもらったり、聞いてもらったりする時間を確保する必要がある。	○	〇ルーブリックによる自己評価を基にした分析から今後の授業改善の方向性が明確になるとともに、単元テストの結果から「思考力、判断力、表現力」を育成する授業づくりの必要が明らかになっており、「確かな学力」の向上に、向けた今後の取組に期待できる。 また、基礎基本の学力の定着に向けて、朝会や授業始めの時間を効果的に活用されながら取り組まれていることは評価できる。 〇児童が主体的に考えることができるような授業を工夫されている。それが児童の学ぶ意欲につながっている。 〇漢字検定を実施していることも学ぶ意欲づくりにつながっていると思う。 〇図書館や読み語りグループとの連携も読書活動に役立っていると思う。 〇親子読書の日に、親も読みたいたいと思えるような本を持ち帰ってくるので、親も楽しみにしている。保護者同士で情報交換をしながら進んでいくようにしていきたい。	・ルーブリックの自己評価がA評価になる児童の目標を①55%②55%③65%としていた。③は達成できたが、①②は達成できなかった。達成のために、単元に入る時にA評価の姿を児童と確認することで、児童の意識を高める。また、児童に課題をもたせ、考えを伝え合って問題を解決するような授業展開していく。 ・児童の「思考力・判断力・表現力」を高めるために、児童がじっくり思考する場面を大切に授業づくりを行う。また、3学期に「思考力・判断力・表現力」の育成に重点を置いた授業研究を行う。 ・朝会や授業はじめの漢字の書き取りを継続して行うことで、漢字の定着を図る。定期的な復習の時間を設けることで、下学年の既習漢字の定着も図る。 ・100マス計算にこだわらず、知識や技能を定着させるために様々な課題に取り組ませる。(例：面積の公式を使った立式など)3学期以降の単元や児童の実態を考慮して、3学期に取り組む課題を冬季休業中に用意しておく。 ・図書委員による読み聞かせ朝会や図書イベント、読書朝会は3学期以降も継続して行い、図書への関心を高める。また、家庭読書の本を選ぶ際に、保護者の方に読み聞かせしてもらいたい本や興味のある本を選ぶように声掛けをしていく。		
			〇漢字のテストにおいて、期待正答率を達成する児童の割合	70%	88.5%	79.7%	114%	A						
			〇計算の個人目標(時間・正答率など)を達成する児童の割合	80%	86.5%	83.3%	104%	A						
豊かな心	〇「道徳科」の授業改善を行い、児童の道徳的価値を高める。 〇ふるさと学習の推進を行いせらにしに誇りをもつ児童の育成を行う。 せらにしに誇りをもつ児童の育成を行う。	〇「対話」の充実を図り、児童が新しい価値に気づくことができる授業づくりを行う。 〇せらにしのよさをたくさん発見し、せらにしに誇りをもつ児童を育てる。(内容例「せらにし小 太鼓」「産業」「環境」「福祉」等)	〇新しい価値に気づくことができたことと振り返りに書いた児童の割合(道徳ノートの見取り)	75%	45%	86%	114%	A	〇道徳の授業を通して、新しい価値に気づくことができた授業は、86%であった(板書の分析による)。児童アンケートによると、授業を通して新しい価値に気づくことができた児童は99%であった。新しい価値に気づけるような学習展開や板書の工夫によるものではないかと考えられる。 〇児童アンケートの結果は94.2%であった。花いっぱいふれあい清掃活動や生活科、総合的な学習の時間での取り組みやコミュニティ・スクールとしての取組の成果であると考えられる。 〇目標値を達成することができた。道徳科や総合的な学習の時間において、地域の良さや学校の伝統と結びつける取組を行った。また、地域の方と花いっぱいふれあい清掃活動を行うなど、コミュニティ・スクールとしての取組を進めることができた。 〇自分から進んであいさつができる児童が増えている。毎月行っているあいさつが年ばり賞の表彰人数を増やしたことで、より意欲的に自分から進んであいさつできるようになっている。	○	〇特別な教科「道徳」の授業の充実に向け、全教職員で取組、児童の価値観の向上につながったことは、高く評価できる。また、取組を通じて指導者の授業力向上につながっていることも評価できる。 〇1時間1時間の授業の積み重ねと学びの足跡の掲示等で子供たちの心が育っていると考えられる。 〇「ふるさと学習」を軸にした地域の関係団体と連携したCSの取組は、児童の豊かな体験活動につながり、人格・人間形成に大きな影響を及ぼしており、高く評価できる。 〇学校で学んだことを地域に還元できるように、地域の中で役に立っていると感じられる活動ができれば将来につながる深い学びになると感じている。	・課題について考える時間をしっかり取り、自分との関わりから内容項目を振り返らせることで、対話を通して新しい価値に気づかせていく。 ・ふるさと学習の取組と道徳科の授業を関連させ地域との関わりについて考えることができていく。3学期以降も他教科や総合的な学習の時間を中心に、地域とどう関わっていくのか、地域のために何ができるかを考えていく。 ・引き続きコミュニティ・スクールとしての取組を進めていく。そして、学校便りや学級通信などで学校の様子を発信するとともに、活動への参加を呼び掛けていく。 ・3学期以降もあいさつ大使を中心に、引き続きあいさつを呼びかける。また、あいさつ大使を中心に、各学年のあいさつへの取り組みを共有することで、さらに意識をもってあいさつに取り組ませ、元氣なあいさつが飛び交う学校にしたい。		
			〇道徳アンケート「今住んでいる地域や社会をよりよくするために、何かしてみたいと思う。」と答える児童の割合(児童アンケート)	85%	93%	94.2%	111%	A						
			〇自分から進んであいさつをする習慣を身に付けさせる。	80%	97.1%	97.1%	121%	A						
健やかな体	自らを鍛え、自らを主体的に管理する力を育てる。 〇外遊びをしっかりと行い、体力の向上を図る。	〇つばきっ子ふれあいファームで、地域の方と農業体験をする。 〇全校遊びや学年遊びを計画し、外遊びの充実を図る。	〇児童アンケート「食べ物や食べ物を作ってくださいの方に感謝して食べています。」に対して肯定的回答をする児童の割合	70%	98%	100%	142%	A	〇つばきっ子ふれあいファームで、地域の方とさつまいもの収穫を行った。収穫したさつまいもは、家庭に持ち帰ったり、学校給食で活用したりした。メッセージカードを地域の方に届けたり、学校給食で活用する動画を児童に見せることで、食に対する興味関心を引き出し、感謝の気持ちを育んだ。 〇低学年が83%、中学年が74%、高学年が90%という結果である。寒い季節に入ったものの、防寒をして児童がグラウンドに出ている姿をよく見掛ける。各担任の外遊びを進める声掛けが有効であった。	○	〇自分たちで栽培を体験することは大切なことなので、継続をよろしく願います。 〇収穫したサツマイモを家庭でも食べることで、作業のことや教えていただいたことなど食に関する会話につながっていると感じる。	・つばきっ子ふれあいファームでの取組は継続して実施していくが、畑の移動や収穫物の活用方法に変更があるため、取組内容について検討する必要がある。 ・児童会と連携し、全校外遊びの機会を定期的に設ける。友達と交流を深める楽しさを味わわせていく。今後も取組を工夫して、児童の体力を高めていく。		
			〇休憩時間に外で遊んでいる児童の割合	80%	88%	82%	102%	A						
信頼される学校づくり	〇「せらにし小 太鼓」の充実と発展 地域とともにある学校づくりをめざし、信頼される学校づくりを行う。 〇コミュニティ・スクールを充実させる。	〇学習発表会や地域のイベントで「せらにし小 太鼓」を演奏し、児童が全力で取り組む姿を披露する。 〇「防災学習参観日」「花いっぱいふれあい清掃活動」を開催し、地域・保護者の方々と児童の交流を行い、地域・保護者と学校がつながる。	〇保護者アンケート「子供達は自分たちの力を出し切って演技をした。」の肯定的回答の割合	90%	100%	100%	111%	A	〇運動会、学習発表会の保護者アンケートでは、提出いただいたすべての方が肯定的評価だった。 〇学習発表会では、学年が上がると表現力があがっていると感じたと記入して下さっている方が多かった。 〇学習発表会では、全校群読を取り入れ、全校が一体となって表現する姿にたくさんの高評価をいただいた。 〇「花いっぱいふれあい清掃活動」において、「会に参加することで、子供たちの様子が分かりましたか。」とアンケートをとった。97.4%が肯定的評価であった。「分らなかった」と答えた方、無回答がそれぞれ1.3%であった。	○	〇各行事の取組を通して、地域とともにある学校づくりが醸成され、信頼と安心感のある「せらにし小学校」が創造されており、高く評価できる。 〇一人一人がやる気をもって、みんな一つのことをやり遂げる姿がたくさん見られた。自己肯定感の高まりにつながっている。 〇6年生のせらにし小太鼓を演奏する姿を目標に、学年ごとに表現力を身に付けていく流れができていると感じる。 〇「花いっぱい清掃活動」をきっかけに地域の方と知り合い、話をしたり一緒に活動する機会が増えると感じる。	・児童一人一人が全力で取組む姿を学校行事等を通して見ていただくことができた。また学校だよりやホームページ等で発信を行った。 ・「せらにし小 太鼓」は、11代目から12代目へと引き継いでいくことになるが、技術だけでなく、太鼓の準備・片付け、演奏できることへの感謝の気持ちなども確実に継承していけるように取組を進める。 ・地域と連携し、「せらにし小 太鼓」の披露の場を設定していくことも行ってきたい。 ・「花いっぱいふれあい清掃活動」では、「一緒に活動できて良かった。」という意見が多い中、地域によっては「児童生徒ともしっかり話したかった。」という意見があった。地域に児童が向いている良さを生かし、地域の方との触れ合いの時間を確実に確保できるように、学校運営協議会の中でしっかり練っていく必要がある。		
			〇コミュニティ・スクールを充実させる。	90%	85%	97.4%	108%	A						

【自己評価】A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60 ○

【学校関係者評価】イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。